

○中干し後は適正な水管理で、根の活力を高めましょう！

○草刈りを徹底し、カメムシ類による「斑点米」の発生防止に努めましょう！

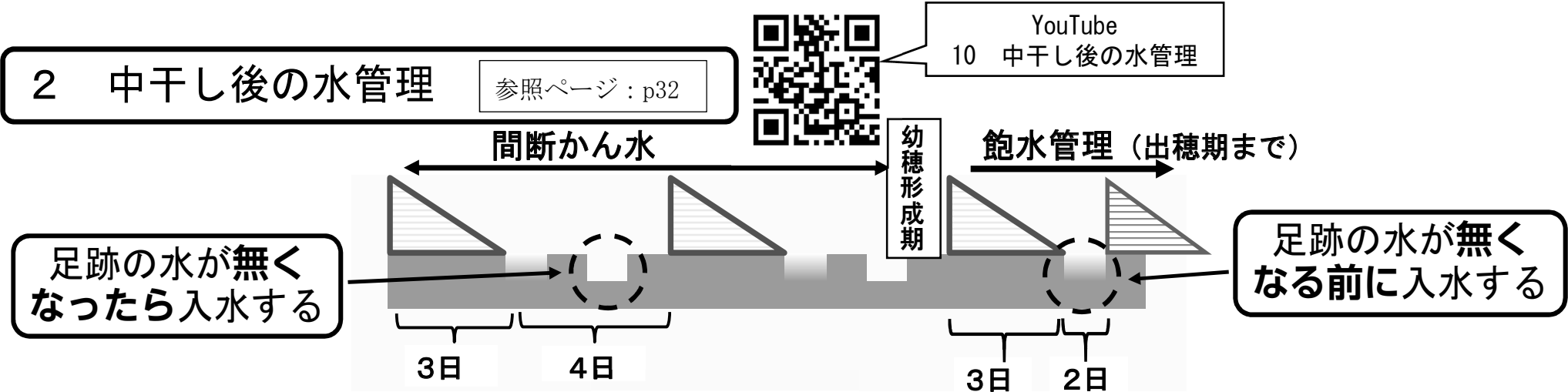
1 生育概況

- 【コシヒカリ】
平年に比べ、草丈はかなり長めで、茎数はかなり多く、葉色はやや濃いめで、葉齢の進みは5日程度早めです。
- 【てんたかく】
平年に比べ、草丈はかなり長めで、茎数はかなり多く、葉色は並みで、葉齢の進みは8日程度早めです。
5/3 田植えで、幼穂形成期は6/22頃と予測されます。
- 【てんこもり】
県平均に比べ、草丈はやや長め、茎数はやや多く、葉色はやや淡めで、葉齢の進みは1日程度遅めです。

表 水稻の生育状況（6/1 調査 アルプス米標準田 コシヒカリ 10 か所、てんたかく 3 か所、てんこもり 3 か所の平均値）

品種名	年度	田植日 (月日)	草丈 (cm)	茎 数		葉 齢 (葉)	葉 色	幼 穂 形成期 (月日)
				株当たり (本/株)	㎡当たり (本/㎡)			
コシヒカリ	R8	5/12	29.8	12.4	263	6.7	4.2	—
	R7	5/12	26.4	7.9	164	5.7	3.9	7/10
	平年※1	5/12	27.9	8.0	168	5.8	4.0	7/10
てんたかく	R8	5/3	33.5	19.4	410	8.8	4.3	(6/22)※4
	R7	5/3	29.2	14.2	289	7.3	4.2	6/22
	平年※2	5/4	27.7	12.2	256	7.2	4.4	6/26
てんこもり	R8	5/14	26.5	11.0	232	6.6	4.0	—
	R7	5/13	23.0	8.3	172	5.6	4.0	7/14
	平年※3	5/9	24.4	11.6	220	6.8	4.3	7/12

- ※1 アルプス米標準田における H28～R7 調査ほの平均値
※2 H28～R2 は県生育観測ほ 2 か所、R3 は管内調査ほ 4 か所、R4～R7 は 3 か所の平均値
※3 県生育観測ほの H28～R7 の平均値（R7 は管内調査ほ 3 か所の平均）
※4 カッコ内の日付けは予測値



- てんたかくは6/22頃、コシヒカリは7/2頃、てんこもりは7/12頃まで間断かん水を行い、うわ根を伸ばすとともに、足跡の深さが3cm程度となるまで、しっかりと地固めしましょう。
- 幼穂形成期以降は飽水管理に切り替えますが、強い田干しは避け、ほ場が乾き過ぎにならないよう管理しましょう。
※飽水管理は、「圃場に入水」→「自然減水」→「足跡の水が無くなる前に入水」を繰り返す水管理です。
※4日以上湛水状態が続く圃場は落水し、新しい水に交換しましょう。
- 出穂後20日間は湛水管理を行いましょう。

3 「てんたかく」の穂肥と防除

YouTube
11 穂肥散布のポイントと注意点

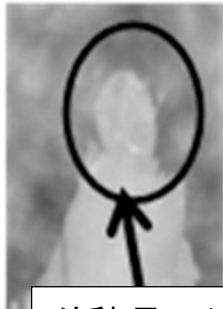
- (1) 穂肥
- 分施肥系の1回目の穂肥は、幼穂形成期頃（幼穂長1～2mm）に直ちに施用しましょう。
- なお、基肥一発肥料を施用した圃場は、倒伏を防ぐため、穂肥は施用しないでください。
- ただし、幼穂形成期前に葉色が4.0を下回る場合は、幼穂形成期頃に追加穂肥を行ってください。
- 移植日や標高等により施用時期が異なるので、必ず幼穂長を確認してから施用しましょう。

【分施肥系】（10a 当たり）			
肥料名	1回目	2回目	
追肥3号	6/22頃	1回目の7～10日後	
	10kg	砂壤土	砂壤土以外
		13kg	10～12kg

※5/3 田植えの場合

【基肥一発体系】（10a 当たり）	
肥料名	6/22頃
追肥3号	7kg

※幼穂形成期前に葉色が4.0を下回る場合は施用する



幼穂長：1～2mm

- (2) 出穂期防除（5/3頃田植えで、出穂期7/13頃と見込まれます）

○穂が5割程度出た頃に、遅れずに防除しましょう。

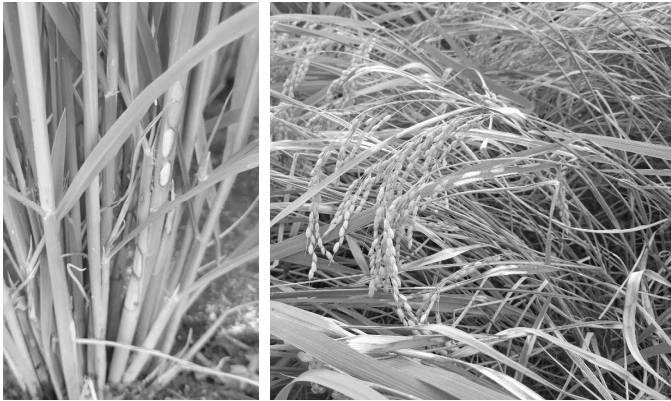
参照ページ：p35

出 穂 期 防 除（※「てんたかく」は防除必須）			
薬剤名	粉 剤 体 系	液 剤 体 系	
		通 常 散 布	空 中 散 布
薬剤名	ビームモンカット スタークルF粉剤5DL	モンカットフロアブル ＋スタークル液剤10	モンカットフロアブル ＋スタークル液剤10
散布量	4kg/10a	150L/10a、1000倍	0.8L/10a、8倍

4 紋枯病の防除

○昨年、紋枯病が多発した圃場は、出穂前に防除を行いましょう。

	粉剤体系	液剤体系（通常散布）	液剤体系（空中散布）
薬剤	バリダシン粉剤DL	バリダシン液剤5	バリダシンエアー
使用量	3～4kg/10a	150L/10a、1,000倍	0.8L/10a、8倍
防除時期	コシヒカリ・富富富：出穂10日前頃 てんこもり：出穂7日前頃		



5 草刈りの徹底

～早生の等級格下げの主な要因は、**斑点米カメムシ類**による**斑点米**です！！

草刈り運動期間：6月26日～7月5日
<一斉草刈り日：6月27日(土)～28日(日)>

○カメムシによる斑点米の被害防止対策には、畦畔等の草刈りと基本防除が不可欠です。また、圃場内にノビエやホタルイが残っていると被害を助長するので、抜き取り等も行いましょう。

＜草刈りのポイント＞

- 畦畔や雑草地でのカメムシの増殖を抑えるため、イネ科雑草の穂が出る前に草刈りを行いましょう。
- 圃場内に発生した雑草(ノビエ、ホタルイ等)もカメムシの餌になるので、雑草の発生状況に応じて、適切な除草対策を行いましょう。

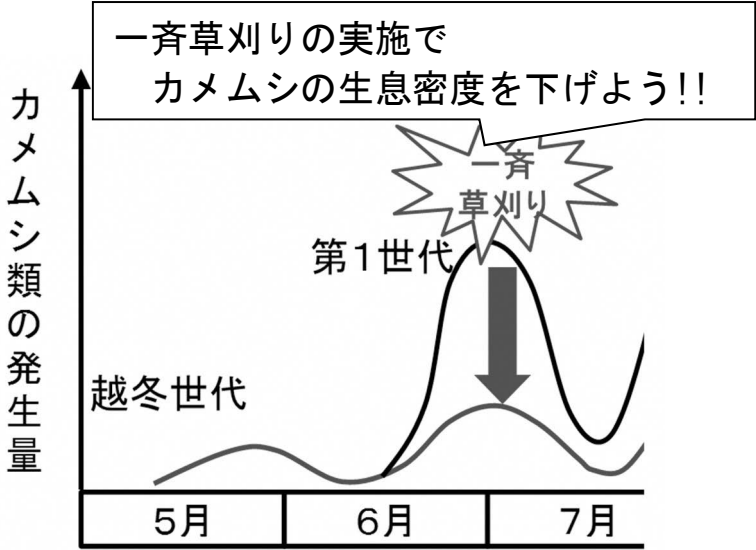
＜草刈り時の留意点＞

- 刈った草は、河川や海岸の環境保全の面から、用排水路にできるだけ流さないようにしましょう。
- 草刈機でケガをしないよう防護装備を着用し、近くを通過する人や車等に小石が飛散しないよう、周囲の状況を確認して作業しましょう。

斑点米の原因となる主なカメムシ

アカヒゲホソミドリカスミカメ (体長 5～6 mm)	アカスジカスミカメ (体長 4.6～6 mm)	トゲシラホシカメムシ (体長 4.5～7 mm)	クモヘリカメムシ (体長 15～17 mm)

カメムシが好む草種



6 大麦あと圃場の管理

- 大麦あと圃場を放置すると、スズメノテッポウ等の雑草が繁茂し、カメムシの発生源になります。
- 緑肥作物等の作付けにより斑点米カメムシ類の繁殖を抑え、斑点米の発生を防止しましょう。
- 作付け予定のない圃場は、耕起または除草剤等を散布し、雑草が繁茂しないよう管理しましょう。

【緑肥作物の作付け】

作物名	クロタラリア
播種時期	6月上旬～8月上旬
播種量	5～6 kg/10a
すき込み時期	播種後 50～70 日後



熱中症対策をして作業を行いましょう！

＜熱中症予防のための5つのポイント＞

- ①気温の高い時間帯を外して作業しましょう
- ②こまめに休憩、水分・塩分補給をしましょう
- ③熱中症予防グッズを活用しましょう
- ④単独行動は避け、連絡を取り合いましょう
- ⑤熱中症警戒アラートを活用しましょう（環境省・気象庁 HP、富山防災 WEB で確認できます）



令和8年度 富山県農薬危害防止運動の実施中
～ 農薬使用前 周囲よく見て ラベル見て ～

営農情報第5号の発行日は
7月10日頃です